

第六回 陽林会 研修

浄土真宗・西本願寺と龍谷ミュージアム

文責 岩水龍峰

平成27年9月18日(金) 林陽寺駐車場を7時30分に出発、岐阜駅にて名古屋からのメンバーと合流し、一路京都へと向かう。参加者は、25名。11時頃に京都に、早速龍谷ミュージアムへ。薬師寺村上副住職の出迎えを受け、講義室へ、30分ほど玄奘三蔵法師の足跡、当時のシルクロードの様子、中国に仏教の広まった背景などの講義を受ける。龍谷ミュージアムは、仏教総合博物館として龍谷大学創立370年と親鸞上人750大遠忌記念として最近建立された博物館。展示の圧巻は、大谷光瑞率いるシルクロード探検に係るトルファンのベゼクルク石窟の復元展示です。高さ3.5m、長さ15mにわたる大回廊の原寸大復元は目を見張ります。



さて、今回の玄奘展は、薬師寺の玄奘関係の資料と龍谷大学の史料を併せて展示され、「迷いつづけた人生の旅路-玄奘-」と題し「①玄奘さんてどんな人②玄奘さんの伝記③玄奘さん仏教に出会う④玄奘さん天竺に旅する⑤玄奘さん、唐に帰り訳経に挑む」のような内容でした。

玄奘三蔵法師（三蔵法師、繁体字：三蔵法師、簡体字：三蔵法師は、仏教の経蔵・律蔵・論蔵の三蔵に精通した僧侶（法師）のこと。また転じて訳経僧を指していうようになった。単に「三蔵」と呼ぶこともある。日本では中国の伝奇小説『西遊記』に登場する人物「三蔵法師」として特に有名だが、三蔵法師というのは一般名詞であり、尊称。西遊記の三蔵法師（玄奘三蔵）は数ある三蔵法師のうちのひとりである。玄奘三蔵（600または602～664）は中国・隋の時代に生まれ、唐の時代に活躍した仏法僧です。貞観3年（629）27歳のとき、国禁を犯して密出国します。3年後に、ようやくインドにたどり着き、中インドのナーランダール寺院で戒賢論師に師事して唯識教学を学び、インド各地の仏跡を訪ね歩きました。玄奘のインド・西域求法の旅は、通過した国が128国、実に3万キロに及び貞観19年（645）43歳の時に唐の都長安に帰ります。その間、16年（19年）とも言われる。

麟徳元年（664）に、玄奘三蔵は62歳で没しますが、訳業19年、死の間際まで漢訳への翻訳に打ちこみました。それでも、持ち帰った経典の約3分の1しか訳せなかったとい



拡大図

います。玄奘三蔵が翻訳した経典の数は、大般若経600巻をはじめ74部1335巻にのぼります。今、日本で最も読誦される「般若心経」の基となったのは、この大般若経です。

今回の展示の中で大変興味を引く展示がありました。それは、以前、訪れた敦煌榆林窟（ゆうりんくつ）第三窟普賢變



相図の中に三蔵法師の姿があることに驚きました。絵面の中に、玄奘は、一人の若い高僧象で、漢式の衣を内に着け、外は袈裟をはおって、進んでいる姿が描かれています。悟空は猴像で、彼の後に白馬が随行している。この馬は、荷馬になって、蓮華台の上に仏典を乗せて東帰することを表わしている。あきらかに明代の呉承恩（公元 1500–1582 年）が作った「西遊記」の中の描写を彷彿させるものである。明代前の西夏（日本の平安時代）の壁画の中に、もうこの物語を表現することがあったのです。榆林窟の壁画には、他にも玄奘が描かれていて、玄奘研究にとっては貴重な史料といわれている。

西本願寺 聞法会館にて昼食を頂き、午後西本願寺を案内していただく。本願寺は、浄土真宗本願寺派の本山で、その所在（京都市下京区堀川通花屋町下ル）する位置から、西本願寺ともいわれている。浄土真宗は、鎌倉時代の中頃に親鸞聖人によって開かれたが、その後、室町時代に出られた蓮如上人によって民衆の間に広く深く浸透して発展し、現在では、わが国における仏教諸宗の中でも代表的な教団の一つとなっています。もともと、本願寺は、親鸞聖人の廟堂から発展した。本願寺の名前は、元亨元年（1321）ころに公称し、覚如上人の晩年から次の善如上人にかけて親鸞聖人の影像の横に阿弥陀仏像を堂内に安置した。これを御影堂と阿弥陀堂の両堂に別置するのは、

第7代の存如上人のときからである。

5間四面の御影堂を北に、3間四面の阿弥陀堂を南に並置して建てられた。本願寺は慶長元年（1596）の大地震で御影堂をはじめ諸堂が倒壊し、阿弥陀堂は被害を免れた。翌年に御影堂の落成をみたものの、元和3年（1617）には失火により両堂や対面所などが焼失した。翌年阿弥陀堂を再建し、18年後の寛永13年

（1636）に御影堂が再建された。このころ対面所な

どの書院や飛雲閣、唐門が整備された。ところが元和4年に建立された阿弥陀堂は仮御堂であったので、宝暦10年

（1760）本格的な阿弥陀堂が再建され、ここに現在の本願寺の偉容が整備されたのである。



案内していただいたのは書院、唐門、飛雲閣。唐門を除いて普段はいることができない。全てが国宝ばかり。桃山時代の美意識を伝える豪華な障壁画を持つ建物ばかり。豊臣秀吉の聚楽第から移築されたという伝承もあるが定かでない。

対面所などの遺構は、当時の大大名の権威の象徴のようであり、西本願寺の力を誇示するような建物である。

上の写真は、対面所の最も奥まったところ（上々段）であるが、江戸時代初期書院造りの最高峰と言われている。素晴らしい建築群を見学させていただいた。有難うございました。ご苦労様でした。